

2013

3

March
vol.175

御喜美江 ©T.Mochizuki



FOCUS

3.13 [水] ちょっとお昼にクラシック 御喜美江 (アコーディオン) アコーディオンが奏でるアフタヌーン・アラカルト

text : 篠田大基

ウィークデイの昼下がりに、コンサートホールでちょっと優雅な時間を過ごしてみませんか？ 平日昼間のコンサート「ちょっとお昼にクラシック」。3月13日は、世界中のアコーディオン奏者から尊敬を集める「アコーディオンの女王」御喜美江さんの登場です。今回は、御喜さんの愛弟子・大田智美さんも出演。御喜さんのソロと師弟の息の合ったデュオ、そして楽しいトークで、アコーディオンの珠玉のアラカルトをたっぷりご堪能ください。

「アコーディオンってすごい！」それまでもアコーディオンのCDはいくつか聴いていたものの、私が心の底から感嘆したのは、3年前に東京で開催された御喜さんのコンサート「アコーディオン・ワークス2010」でした。最初に演奏されたのは、ヘンデルの〈調子のよい鍛冶屋〉(チェンバロ組曲第5番の第4曲)。あの「トンテンカンテン」と鉄を打つ音を思わせる旋律が有名な曲です(もっともヘンデルが鍛冶屋の鎚音を聴いてこの曲を作ったというのは俗説ですが)。ところが、御喜さんの手にかかる、鎚音は後景に退き、前景に出てくるのは、赤々と燃える炉の炎のように自在にゆらめくりリズム。アコーディオンの蛇腹ふいごの操作が、炉に空気を送る鞆のように、音楽

を息づかせるのです。よく知られた曲がまったく違った相貌をもって現れてくる——チェンバロやピアノとは違う発音機構を持つアコーディオンの面白さを知った瞬間でした。

このアコーディオン版〈調子のよい鍛冶屋〉は、その後発売された御喜さんのアルバム『シル・ヴ・プレ』(BIS BIS-CD-1804)に収録されました。CDには3月13日に水戸芸術館で演奏される作品も数曲収められていますので、ぜひお聴きください。鍵盤やボタンの上を駆け巡る左右の指の超絶技巧と、蛇腹のうねりが作り出す歌心を味わいながら、演奏会当日を楽しみにお待ちいただければ……！

さて、今回のコンサートの幕開けは、バッハの〈幻想曲とフーガ〉ト短調BWV542。「大フーガ」とも呼ばれるこのパイプオルガンの壮麗な音楽を、御喜さんはアコーディオン2台のために編曲しました。大きさではパイプオルガンより圧倒的に小さいアコーディオンに、どれほど深い表現力が秘められているのか、きっと驚かれることでしょう。

けれども、かしこまらずに、どうぞリラックスしてお聴きください。2曲目は、昨年亡くなった作曲家・林光が新藤兼人監督の映画『裸の島』のために書いた映画音楽(新藤兼人監督も昨年亡くなりま

した)。さらに都会的でクールなフィリップ・グラスの小品、流麗な旋律に仄かな悲しみが漂うアンドレ・アスティエ&アンドレ・ロックの作品が続きます。実験音楽の大家ジョン・ケージの〈夢〉は、たゆたう旋律が美しい幻想的な作品。

コンサートの後半は、タンゴの巨匠ピアソラの作品を特集します。アルゼンチン・タンゴに欠かせないバンドネオンはアコーディオンの姉妹楽器。御喜さんは学生時代に、かの武満徹から勧められ、以来ピアソラの音楽に取り組んでいるとのこと。〈リベルタンゴ〉〈鮫〉などの名曲はもちろん、〈バチンの少年〉〈忘却〉など、ピアソラの歌曲にもご注目を。その哀愁の歌をアコーディオンが奏でます。これを聴けばあなたも「呼吸する鍵盤楽器」アコーディオンの虜！

ちょっとお昼にクラシック
 御喜美江 (アコーディオン)
 ~アコーディオンが奏でるアフタヌーン・アラカルト~

3/13 (水) 13:30 開演 (13:00 開場)

会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM
 全席指定 ¥1,500 (1ドリンク付き)

主演 御喜美江 (アコーディオン)

大田智美 (アコーディオン/ゲスト)

曲目 J.S. バッハ: 幻想曲とフーガト短調 BWV542

林光: 〈裸の島〉の主題によるパラフレーズ

グラス: モダン・ラブ・ワルツ

アスティエ&ロック: ミス・カーティン

ケージ: 夢

ピアソラ: S.V.P. (シル・ヴ・プレ)、バチンの少年、
 白い自転車、リベルタンゴ、
 天使へのイントロダクション、
 忘却 (オペラヴィオン)、鮫 (エスケアロ)

3.10日at 15:00 池田紗智恵 ピアノ・リサイタル

「茨城の名手・名歌手たち 第11回」で初めて水戸芸術館の舞台に立たせていただいたから13年が経とうとしています。私にとってその時のことは月日が流れても鮮明に色濃く記憶に刻まれています。それは演奏をしながら初めての感覚に触れたからです。ホール全体に自分の音が包み込まれ、フレーズの間たった今弾き終えたばかりの響きが遠くから聴こえ、目の前で鳴った音が柔らかい曲線を描きながら飛んでいった先まで聞き逃すことのない響きの輪のような感覚。私はとても気持ちよくなり鼻歌を口遊みながらシューマンの幻想曲の第一楽章を弾き終えました。そして、当時、司会を務めておられました故・畑中良輔先生に頂いた「彼女は再びこ

の芸術館に戻ってくることでしょ」との温かく心強いお言葉は今でも私の大きな支え、励ましになっています。

それから月日が経ち、若さを味方に勢いで音楽活動をしていた当時に比べ自分に変化がありました。特にイタリアでの留学生活、ほんの数年ですが、見知らぬ土地で、見知らぬ人と、全く異なる文化に言葉、その中で自分の居場所を見つけ根を生やすことに苦労いたしました。しかしその甲斐あって今ではイタリアは私の大事な第二の故郷となり、私の音楽の多くに好影響をもたらしたと確信しています。

今回のプログラムは、そんな留学生活中に会った曲を織り交ぜて構成いたしました。イタリアの燦燦と輝く太陽

の下で窓を開け放ち、真っ白なカーテンが風と戯れる中で響くピアノの音色。人種も空気もなんて解放的なんだ!と感じた気持ちが少しでも表現できれば嬉しいです。

最後になりましたが、水戸芸術館でのリサイタルという本当に貴重な経験をさせていただけることを心より感謝いたします。今の自分で、精一杯、演奏会に臨みたいと思います。



池田紗智恵

3.17日at 15:00 中村真由美&中村佳代 ピアノ・デュオ・リサイタル

「さて、今回のデュオ・リサイタルでは、どのような選曲をしてみよう…」と考えを巡らせました。水戸芸術館に於いて4回目となる今回のリサイタルでは、何かテーマを決めて選曲してみたいと思いました。まず始めに選んだ曲はラヴェルの〈ラ・ヴァルス〉。それから、以前から気になっていた、ポーランドの作曲家タンスマンの〈大西洋横断ソナチネ〉。この2曲を考えた時、ある共通点を見出しました。「舞曲」つながりがある!〈ラ・ヴァルス〉はフランス語でワルツの意味。ドラマチックなタイトルの〈大西洋横断ソナチネ〉は、フォックス・トロット(社交ダンスの一つ)、スピリチュアル(黒人霊歌)とブルース、チャールストン(1920年代にアメリカで大流行したダンス)の3楽章からなるジャズ風の作品です。その他、舞曲

を含む作品を考えた時、2011年の「クリスマス・プレゼント・コンサート」の折、連弾で演奏したフォーレの〈ドリー〉を思い浮かべました。昨年お亡くなりになった畑中良輔先生の、水戸での最後のご出演となったこのコンサートは、私達にとっても忘れ難いものとなりました。その時、2台ピアノとは一味違った連弾の楽しさを改めて感じ、今までは2台ピアノにこだわって選曲してきましたが、今回は連弾の曲も取り入れることにしました。

前半のステージでは連弾の曲、フォーレの〈ドリー〉、そしてラフマニノフの〈6つの小品〉をお届けします。〈ドリー〉は畑中先生の思い出を胸に、先生に捧げる気持ちで演奏したいと思います。後半のステージでは、2台ピアノの作品を演奏します。タンスマンの〈ヨハン・シュト



ラウスのワルツによる幻想曲)で始まりますが、これはお馴染みのウィンナ・ワルツが次々と現れる作品です。そして前述の〈大西洋横断ソナチネ〉へと続きます。それから、ラヴェルの〈耳で聞く風景〉。スペインの舞曲を取り入れた“ハバネラ”と“鐘の鳴るなかで”の2曲から成る、ラヴェルの初期の作品です。そして、ウィンナ・ワルツへのオマージュでもある絢爛豪華なワルツ〈ラ・ヴァルス〉で演奏会を締めくくります。多様な舞曲を織り込んだステージをどうぞお楽しみに!

中村真由美・中村佳代

3.24日 at 14:30 M.L.R. & 水戸第二高等学校コーラス部コンサート

～わたしはあなたに会いに行く

2009年3月、水戸二高コーラス部は、「第31回日頃音楽親善演奏会」への参加を認められ、ウィーン楽友協会「黄金の間」でコンサートを行う機会を得ることができました。

ウィーン・フィルの本拠地である、気品に富んだまさにウィーン独特の黄金色の木造箱形のホールでは、良き音は祝福を受けてあくまでふくよかに響き、固く力んだ音は消えていくのです(世界一のホールとはこういうことなのでしょう)。ステージ上の音楽は至福の音響と素晴らしい聴衆の熱気を得て完成されていきます。そこでは自分の知る最も善き自分との出会いを可能にしてくれました。まさにホールの偉大な力! 更に翌日のシュテファン大聖堂での演奏には奇跡が起きまし

た。一体若者とは何なのでしょう? 「ただ祈って欲しい」という言葉を実践する純粋さ。その演奏はやがて、想像もしなかった2012年3月のパチカン・サン・ピエトロ大聖堂ミサとシステリーナ礼拝堂コンサートの実現を生むことになりました。全身をミケランジェロに強く見つめられていた感触が忘れられません。

コンサートの第1部はそのウィーン、ローマの思い出から。バードのミサ曲、ホルスト、シュトローバハ、コチャール、ビーブル等の〈アヴェ・マリア〉をア・カペラで、シューベルト、ラインベルガー等を水戸芸術館のポジティブオルガンの伴奏で再現します。第2部は瑞々しい宝石のような寺嶋陸也の音の世界、神秘的で壮大な宇宙を思わせる鈴木輝昭の

音の世界、2人の凛と透明な現代合唱曲の世界を。特別出演の鈴木あずさはジュリアード音楽院を経て帰国後は室内楽を三善晃に学んだ話題のピアニストです。若者の夢への挑戦をお聴き頂き、明日への叱咤激励を頂けましたら嬉しく存じます。設立当初から敬愛し続けている水戸芸術館コンサートホールでの公演は大きな喜びです。



寺門芳子

(水戸第二高等学校コーラス部顧問)

1月の公演から

CONCERT REVIEWS

2013.1.6

ちょっとお昼にクラシック 池松宏

水戸室内管弦楽団のコントラバス奏者としておなじみの池松宏さんが、ピアノの松川儒さんとの共演で、「昼クラ」シリーズに登場した。モーツァルト〈ヴァイオリン・ソナタ〉K.304での自在なフレーズ、川島素晴〈パガニ蟹〉での演出付きの超絶技巧など、聴衆はコントラバスという楽器の無限の可能性に驚きつつ、その演奏にすっかり魅了された。鳴りやまぬ拍手に応えたアンコール曲は、越谷達之助〈初恋〉、岡野貞一〈ふるさと〉、成田為三〈浜辺の歌〉、モンティ〈チャールダーシュ〉、マイヤーズ〈カヴァティーナ〉(映画「ディア・ハンター」主題曲)。《関根》アンケートから■〈春の海〉、かっこよくてびっくりしました。〈パガニ蟹〉も、演奏者というだけでなく、もう俳優の域だと思いました。すごい表現力。しかもトークもおもしろいという…。クラシックって自由なものですね。(水戸市:Y.M.さん) ■コントラバスでこんなにも幅広くメロディーを奏することができるとは思いませんでした。おそろべし!コントラバスの音域と表現力で拍手です。ピアノも素晴らしかったです。お二人の息もピッタリ。(鹿嶋市の方)

2013.1.13-14

水戸室内管弦楽団第86回定期演奏会 指揮:大野和士

世界のオペラハウスから引っ張りだこのマエス

トロ、大野和士が水戸室内管弦楽団(MCO)の指揮台に初登場した。今回はスケジュールの都合で通常4日間設けるリハーサルが3日間に絞られたが、大野はオペラ指揮者ならではの手際の良さを見せ、順調に音楽づくりが進められた。ドヴォルザーク〈弦楽セレナード〉、テノールの新星・西村悟を独唱に迎えたブリテン〈ノクターン〉、シューベルト〈第6交響曲〉という3曲のプログラムに大野が設定したテーマは「ロマン」。三者三様のロマンの発露が、大野の流麗なタクトのもと、MCOの自発性溢れるアンサンブルにより、みずみずしく表現された。アンコール曲は、フォーレ(アンリ・ラボール編曲):組曲〈ドリー〉作品56から第1曲〈子守歌〉。

16日には、つくば・ノバホールにて県南の高校生を対象に公開レッスンを実施(茨城県との共催)。中村静香(ヴァイオリン、ヴィオラ)、四戸世紀(クラリネット)、ラデク・パボラーク(ホルン)、猶井正幸(ホルン)の各氏が講師を務め、模範演奏も披露した。《関根》アンケートから■大野和士さんがすばらしい!MCOから聴いたことのない響きがたくさん聴こえてきました。腹の底にしっかりと伝わる重層感のあるサウンド。(水戸市の方) ■ブリテン〈ノクターン〉では西村さんの独唱とファゴット他の各楽器と弦の絶妙な対話に、今まで味わったことのない音楽表現の世界を感じました。(鉦田市:A.O.さん) ■ブリテンは初めて聴いたが、大変おもしろかった。シューベルトもあまり生で聴く機会がない曲だが、シャープでダイナミックな演奏に感動した。(東京都の方)



1: ちょっとお昼にクラシック
池松宏(コントラバス)

2-3: 水戸室内管弦楽団第86回定期演奏会

INFORMATION

チケット・インフォメーション

《2月23日(土) 発売分》

- ヒラリー・ハーン ヴァイオリン・リサイタル
5/19(日) 14:00 開演
料金 [全席指定] A席 ¥6,000 / B席 ¥5,000
- 児玉桃 ドビュッシーをとりまくピアノ音楽のシリーズ—
第4回「ドビュッシーとメシアン、武満徹」
6/15(土) 16:00 開演
料金 [全席指定] ¥3,000

これからの演奏会・残席情報

- …残席あり (20席以上) △…残席わずか (20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席
- ◎児玉桃 ドビュッシーをとりまくピアノ音楽のシリーズ—
第3回「ドビュッシーとラヴェル、ムソルグスキー」
……………2/23(土) 中央×、左右○
 - ◎合唱セミナー 2013 ……………2/24(日) 自由席○
 - ◎池田紗智恵 ピアノ・リサイタル ……………3/10(日) 自由席○
 - ◎ちょっとお昼にクラシック 御喜美江 (アコーディオン)
……………3/13(水) 中央○、左右○
 - ◎中村真由美&中村佳代 ピアノ・デュオ・リサイタル……………3/17(日) 自由席○
 - ◎M.L.R. & 水戸第二高等学校コーラス部コンサート……………3/24(日) 自由席○
 - ◎ユジャ・ワン ピアノ・リサイタル……………4/16(火) 中央○、左右○
- ※2/3(日) 現在の状況です。
※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせください。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

ACM 劇場

- ACM Bookmobile『僕らが天王星に着くころ』
3/17(日) 14:00 開演
料金 [全席自由] 前売り ¥800 / 当日 ¥1,000
- 春風亭昇太 独演会
3/23(土) 18:00 開演
料金 [全席指定] S席 ¥3,500 / A席 ¥3,000 / B席 ¥2,500

現代美術ギャラリー

- 坂 茂 建築展
3/2(土) ~ 5/12(日) 9:30 ~ 18:00 ※入場は 17:30 まで
[休館日] 月曜日
※ただし 4/29、5/6(月・祝) は開館、翌 4/30、5/7(火) 休館
[入場料] 一般 ¥800 / 団体 (20名以上) ・前売り ¥600
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方 1名は無料
- クリテリオム 86 鎌田友介
3/2(土) ~ 5/12(日) 9:30 ~ 18:00 ※入場は 17:30 まで
※料金は展覧会の入場料に含まれます。
- 高校生ウィーク 2013
3/10(日) ~ 4/7(日)
【カフェ開場時間】(火-金) 15:00 ~ 18:00 / (土日・祝) 13:00 ~ 18:00
【カフェ会場】 ギャラリー内ワークショップ室
【無料招待対象】 高校生または 15歳 ~ 18歳の方
※学生証または年齢がわかる証明書をご提示ください。

水戸芸術館の主な3月のスケジュール

コンサートホール ATM

- 池田紗智恵 ピアノ・リサイタル
3/10(日) 15:00 開演
料金 [全席自由] 一般 ¥2,000 / 学生 ¥1,500
- ちょっとお昼にクラシック 御喜美江 (アコーディオン)
3/13(水) 13:30 開演
料金 [全席指定] ¥1,500 (1ドリンク付き)
- 中村真由美&中村佳代 ピアノ・デュオ・リサイタル
3/17(日) 15:00 開演
料金 [全席自由] 一般 ¥3,000 / 大学生以下 ¥1,500
- M.L.R. & 水戸第二高等学校コーラス部 コンサート
3/24(日) 14:30 開演
料金 [全席自由] 一般 ¥2,500 / 高校生以下 ¥1,000

エントランスホール

- パイプオルガン プロムナード・コンサート
3/16(土) 富田真希、23(土) 池谷瑞季、30(土) 千田寧子
各日 12:00 ~ / 13:30 ~ (各回 30分程度) 入場無料

茨城の主な3月の演奏会

- 佐川文庫 TEL / 029(309)5020
・クレア・ファンチ ピアノ・リサイタル 3/2(土) 18:00 開演
・川崎洋介 ヴァイオリン・リサイタル 3/23(土) 18:00 開演
- 日立ビックセンター (音楽ホール) TEL / 0294(24)7720
・洋楽文庫 第2章「ギタリスト 荘村清志 ピアソラ☆タケミツ
—古澤巖をゲストに迎えて—」 3/29(金) 18:30 開演
- ノバホール TEL / 029(852)5881
・第33回 日本フルートフェスティバル in 茨城 3/10(日) 14:00 開演
・有馬由希子 ピアノリサイタル 3/30(土) 14:00 開演

チケットに関するお問い合わせ

- 水戸芸術館チケット予約センター TEL 029-231-8000
営業時間: 9:30 ~ 18:00 (月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ
水戸芸術館音楽部門 TEL 029-227-8118
- ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>
公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>
ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場
twitter @ConcertHall_ATM

編集後記

最愛のハムスター、こむぎ、きなこがほぼ同時に短いハム生を終えてから、1ヶ月経ちます。思い出すと未だに涙が出そうです。まさか2匹とも、虫歯が原因で死んでしまうなんて…天国では甘いもの食べちゃだめだよ。(り)

「そんなに迷っているなら買わない方が良いですよ。きっと買ってもし着ないで終わりますよ。」と、さんざん試着して何も買わずとも嫌な顔ひとつせず笑顔の店員さん。そんな誠実な接客対応にとっても嬉しくなった。(09)

ノバホールで開催したMCOメンバーによる公開レッスン。講師の方々と生徒さんたちが対話しながら、ひとつの音楽を作り上げる。演奏がみるみるうちに変化していく。中学・高校で吹奏楽部だった私も舞台袖で興奮。(篠)

野鳥観察は「いとをかし」。今年は四十雀と山雀がひっきりなしに来るので、向日葵の種がすぐ底をつく。目白など(甘党)、雀など(穀類党)とはまるで嗜好が違う。それでいて、皆で共生している風もある。面白い。(て)

新しい季節はもうすぐ。春といえば借楽園の梅に千波湖の桜! 徒歩圏内にあることが嬉しい。それに春は食べものもいい。いちご大福にふきのとうの天麩羅…。そんなあれこれを満喫すべく、今年も花粉対策始めよう。(樹)

数年ぶりに会った某マネージャーさん。かつてのふくよかな体型が、ジム通いをして見事に引き締まっていた。一方、私はその正反対の増量中。運動は暖かくなってからとうそぶいて、どれだけの春が過ぎ去ったことか。(中)

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]
2013年3月発行 第175号
編集発行: 水戸芸術館音楽部門
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL 029-227-8118 FAX 029-227-8130
E-MAIL ankmr@arttowermito.or.jp
URL <http://arttowermito.or.jp/>
編集: 水戸芸術館音楽部門 (五十音順) / 石井亮子
大金絢子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃
デザイン: 大金絢子
印刷所: 山三印刷株式会社